

Management Club Report

Jul.2015/Vol.151

Monthly Opinion 《人を生かし組織を生かす》

最近、新聞やテレビを賑わしているニュースに新国立競技場建設問題と大手電機メーカーの不正経理事件があります。私なりの観点で見たときの共通項は2点です。1つはいずれも国の顔ともいえるべき存在である点、もう一つは巨額の金額をいとも簡単に増やしたり減らしたりといったことを机上で弄ぶようにしている愚かさです。

「国家の威信をかけて」といった掛け声はよく聞かれます。全世界注視の中で行われるオリンピック・パラリンピック競技会ですので、経済大国の名に恥じない会場整備は必要でしょうが、今の迷走ぶりと責任回避合戦は「国家の威信を失う」に等しい喜劇となっています。

東芝は民間企業ではありますが、その規模と世界的な知名度から言えばもはや国の顔のひとつであるといっても言い過ぎとはならないでしょう。それだけに一私企業の不正事件として留めておくわけにはいかなくなっています。極論をすれば、日本人の正義感が毀損されたと言えるかもしれません。

どちらも「人を生かして組織を生かす」といった観点とは真逆の動きを行った結果でしょうか。それぞれのトップが国のためや会社のためを唱えながらも、その実はトップ個人の立場や名誉欲がその根底に存在していたとすれば、何とも情けない話です。

1

人も生かさず、組織も生かせず

『春秋』が切った東芝事件

7月22日付日本経済新聞の『春秋』は東芝事件に関して次のような論説を行っています。

▼社長月例という会議で、社内カンパニーの長らに「チャレンジ」と称する過大な目標の設定が命ぜられる。意を受けた事業部長、社員らが会計操作に手を染め続ける。内部統制も効かない。誰もが「まずい」と思いつつ、破滅の坂を転がっていく。どれだけの人が苦い酒を飲み、眠れぬ夜を過ごしたかと同情を禁じ得ない。▼「上司の意向に逆らうことのできない企業風土」と、報告書を書く。創業140年のエリート集団を覆った「空気」でもあったろう。2003年